

チューター謝金支給対象活動内容の可否

①日本語学習支援であること
③生活適応支援であること

②専門分野における学習支援であること
④リアルタイムの活動であること

| 活動内容 | 可否 | 留意事項等 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 区役所・銀行での手続き、携帯電話契約の補助 授業内容の復習、応用練習の補助 学食で食事をしながら日本語の会話練習 | ○ | |
| <ul style="list-style-type: none"> レストランで食事をしてそのあと買い物 | △ | 注文のしかたを教える、留学生一人では難しい買い物を補助するなど |
| <ul style="list-style-type: none"> 一緒に行事やパーティーに参加 一緒にお出かけ（旅行）に行った | △ | 通訳等といった支援活動が含まれるかどうか |
| <ul style="list-style-type: none"> 留学生の母語を教えてもらう | × | 支援活動ではないため |
| <ul style="list-style-type: none"> 授業の発表レジュメをメールで添削指導 SNSでのテキストだけのやりとり | × | 謝金の支給対象となるのは活動実態・活動時間が明確に把握できるリアルタイムでの支援のみ |
| <ul style="list-style-type: none"> Zoomなどのビデオ通話を使ったオンライン活動 | ○ | |



チューター謝金支給対象活動例

謝金支給対象ではない活動 ≠ 活動不可

- 友人としての食事、ショッピング、映画鑑賞などで関係がぐっと縮まるのも事実
- チューター活動として「報告」するのは支援のみ
- × 食事をした。
- 食事しながらレストランでの注文の仕方や食事のマナーを紹介した。

活動報告書について

- 毎月7日(土日祝日の場合は次の平日)までに前月活動分の報告書を提出
- 活動0時間でも提出必須
- ひと月分の報告書に、その前後月の活動内容を書かないこと
- タイプした電子版報告書(Google Form)に入力し留学生課へ送付

<提出前に確認>

- 活動日時と時間数に誤りがないか？
- 謝金対象となる活動内容が具体的に記載されているか？

活動内容が分かりにくい報告書（例：情報が少ない、その前の活動内容のコピペ）は、内容を確認させていただく場合があります。

活動報告書例

①どこで(Where)、②何を(What)、③どのように(How)をちゃんと書くこと！！

①～③のうち1つでも欠けていれば謝金の対象とはなりません。

×悪い例

- 日本語の勉強をした。→ 短すぎる。活動内容はより具体的に！
- ラーメンを食べに行った。→ 飲食が目的になるとNG
- 一緒に映画を観に行った。→ 自分も楽しむ活動は支援ではない
- 一緒に旅行をした。IPLANETのイベントに参加した。→ 支援であることが確認できない

◎良い例

- 図書館で日本語の授業で習った助詞の使い方の復習をした。その後、美術館を見学しながら週末の過ごし方について話をしたが、助詞の使い方気をつけながら会話をした。

活動報告書例

【事例①】

まず自己紹介をしました。互いの国について紹介し合いました。次に仙台にきたら何をしたいか話しました。動物が好きなので動物と触れ合うところに行きたいそうです。また、曜日を表す漢字と読み方、ひらがな、カタカナ、午前午後、挨拶についてスペルも含めて伝えました。会話のときに積極的に使ってくれました。また、やりたいサークル活動について冊子を使いながら相談しました。

→「どこで」が抜けているので明記する必要あり「どのように」が具体的でよい。自分が教えたことを会話の中で使っているという結果は「どのように」とは異なるが、活動内容と関連した非常に大事な事実なので◎

【事例②】

日本語の授業で分からなかったところの補足説明をしました。「~のようだ」などの喩えの使い方を例文を提示しながら説明し、納得してもらえました。「~のように」「~のような」など、派生表現の使い分けも解説しました。その後は動画や画像を共有しながらお互いの国の昔話を日本語を使って教え合いました。

→「どこで」が抜けいるので明記。

【事例③】

買い物での会計で隣に立って、留学生が一人でレジで買い物をするのを見守り、必要な場合サポートした。「袋はご利用ですか」、「レシートはいりますか」などのよく使われるフレーズを教え、どのように答えれば良いかなども教えた。

→「どこで」が抜けているので明記。

活動報告書例

【事例④】

宿題と教科書の復習の手伝い。今日は読解や作文の課題はなく、文法や語法の意味・使い方確認を問題を解きながら行った。一緒に課題を見て、まず問題文と選択肢の意味を確認し、チューティーに答えを推測させたあと、回答を確認するという流れだった。復習の方は、質問に答えながらノートにまとめてもらった。詳しい内容としては、授受や使役、義務などの動詞の表現バリエーションだけでなく、「○○なんか/なんて」「～ばかり」などの特徴的な表現などの項目もあった。

→「どこで」が抜けているので明記。

【事例⑤】

病院の診察へ付き添いに行った。医師や看護師、薬剤師さんとのやりとりを仲介し、診察内容や薬を服用する際の注意点などを英語で説明した。

→問題なし。良い活動報告書例。

【事例⑥】

日本のトイレと浴室とフィンランドのバスルームの違いを話した。フィンランドではバスタブはなく、代わりにサウナが一家に一つある。日本ではバスタブでお湯に浸かり、入浴剤を使うことを話した。豆乳があったので勧めたら、何かわからなかいようだったので教えて、少し試食してもらった。八幡宮に興味があるということで八幡神社と一緒に歩いて行った。

→前半の「どこで」が抜けているので明記。生活適応支援をしたことがよく分かり◎。

活動報告書例

【事例⑦】

てんぷらを一緒に食べに行って、てんぷらのメニューを教えた。シシャモ、柏、長芋、牡蠣など教えた。また、キノコの種類も教えた。

スキンケアを教えてほしいということだったので一緒にドラッグストアに行った。

自分のおすすめのものの効果など教えたり、肌が敏感ということのでどのような成分が入ってるか教えた。漢字が読むのが苦手ということもあり、パッケージの読み方を教えたり、意味を教えたりした。

→問題なし。良い活動報告書。

【事例⑧】

自分が所属しているバドミントンのサークルと一緒に参加した。プレーをしていない間には先週末は何をしていたかや今週末の予定について日本語で話した。特に最近の天気の寒暖差について話した。また1年で一番日が長い夏至のことを紹介した。

→「サークルに行った」は支援とはいえないが、日本語での会話を積極的に行い会話力を磨く、夏至について日本語で理解を深めるということが書かれていたので◎